

第4回地域医療に係る対策を検討する専門委員会結果概要

日 時：令和元年11月21日（木）19:00 開始 19:38 終了

場 所：石岡市役所本庁2階201・202 会議室

出席委員：緒方剛会長，小倉俊彦副会長，石突正文委員，吉野浄委員，幕内幹男委員，小林博雄委員，山口典久委員，太田仁委員，寺田茂孝委員，倉田増夫委員

欠席委員：小林雅人委員

傍 聴：27名

会議概要：

事務局より第3回専門委員会の振り返りと石岡地方医療対策カンファレンスへ提出する報告書等についての説明をし，意見交換を行った。また幕内委員より提出された要望書について説明と事務局から今後のスケジュールについての説明があった。

主な内容は以下に記載のとおり。なお，本委員会は公開で行われた。

【石岡地方医療対策カンファレンスへ提出する報告書等について】

伊関委員：15ページに記載されている課題や留意事項等について，「市の一般財源による公立病院のランニングコストの赤字補てんはしないこと」とあるが，この表記では誤解を招くと思う。交付税措置については払うこと，また，施設整備等は一定のルールがあるので，その部分については市の財源から繰り出してもらうことが運営につながる。今は総務省では市の財源からある程度繰り出さないと特別交付税は出さないとしているので，「ルールに基づいた繰り出しは認めるが，それ以外の赤字補てんはしない」のようにした方が良いと思う

幕内委員：一般財源による赤字補てんはしないということについてだが，交付税と市の財源の違いとは

伊関委員：専門的な話になるが，国の予算の中に地方交付税というものがあり，国の予算ではあるが地方に認められた予算であり，ルール化されている。これが自治体の財政力に応じて分配される。これと一般財源という市の税金も含めて繰り出しをする。これが自治体病院のルール。そのルールに基づく繰り出しをしないと運営が大変だし，総務省としては必要な分を繰り出して医療の質を保証するようとしている。その金額は厳守して，それ以上の財政支出はしないということにする。地域医療振興協会はおおむねそれで赤字補てんなしで運営できている。逆にルールにのっとらないと，交付税措置がなくなることもあるので，ルールを守って適切に財政支出してほしい。自治体からも一定の持ち出しはあるが，その金額は過大なものではないと推測している。運営には一定の繰り出しをするように総務省は言っている。その分の繰り出しについて過剰に繰り出しが少ないと交付税措置が減るというようになっている。

緒方会長：交付税をもらうには市からも一定の負担が求められるが，交付税に相当しない分について赤字補てんはしないということで記載に変えていただく。本日もいただいた意見をもとに報告書等を完成させて石岡地方医療対策カンファレンスに報告させていただく。修正については，差し支えなければ，私と事務局に一任させていただく。

【幕内委員からの要望書について】（第4回委員会協議後、幕内委員が要望書を読み上げる形で説明）

幕内委員：前回までの委員会の決議で、合併統合と山王台病院への病床の再配分により40床増床することで概ね合意に至っておりますが、今後40床増床するための施設整備等を速やかに実施していくために、なるべく早く決定や内定をいただいたり、経過を共有したりしてほしい。増床に向けて、今後、具体的に話を進めることとなると、それなりの時間が必要になってくる。仮に今年度末に結論が出たとしても、病床を開くには最短でもそこから3年後がぎりぎりで見込んでいる。急速な人口減と少子高齢化と財政構造の変化に早めに追いついていくためにも、無駄なく用意をしていきたい。再編統合を行っていくために、ステップがあるのは聞いている。総務省や厚労省や議会との調整などもあると思うが、それと我々のことも同じように考えていただきたい。要望書は質問状の形式になっているが、今ここでその質問に答えることではないことも理解している。しかし、それに対して、その都度、話をしてもらわないと、整備が間に合わなくなる。5年後10年後にやっとできましたでは、変化に対応できない。その辺についてご理解いただきたい。

緒方会長：病院にとっては大切なこと。この専門委員会で、案は作成したが、具体的にどう実現していくかは、カンファレンスで提案して県や国の議論を経て、さらに、議会や市民の方からの理解を得る段階など色々な段階を経なければならない。早急に対策を講じなければならないので、再編統合に係る医療機関だけでなく関係する医療機関、行政、医療機関などが力を合わせて対策をする必要がある。早急に方向性を示して、密接な情報提供や適切な対応をお願いしたい。

【今後のスケジュールについて】

伊関委員：今日は傍聴の方も多く、市民の方も地元の病院がどうなるか心配だと思う。この委員会で病院の再編が確定という訳ではない。今後、首長の確認、地方議会における議決や住民意見の反映等、石岡市関係者が全て納得して応援してもらうことが必要。無理やり多数決で押し切ってもいいことはない。住民や患者さんも含めて一緒になって医療を作っていくことが、地域医療をよくする。新しい医療体制、みんなが安心して医療を受けられる体制づくりがこれから始まる。市民の皆さんにも勉強していただいて、意見を述べていただきたい。